

## 新規陽性者の発生動向・医療提供体制の状況

### (1) 大阪府の発生動向

- 12月中旬に感染拡大に転じ、直近 1 週間は過去最大となる約4.6倍の速度で感染が急拡大。
- 厚生労働省の分析では、**変異株PCR検査陰性率は大阪府で60%**であり、**オミクロン株への置き換えが進んでいる**。  
(まん延防止等重点措置適用となる広島県、山口県、沖縄県は 7 割を超過し、直近 1 週k名で感染が急拡大。)
- 12月下旬以降、**各年代ともに陽性者数が増加しており、特に20・30代が急増**。  
**会食や友人・自宅での飲み会、旅行や出張、休憩室等の気が緩みがちな場所での感染の可能性のあるエピソードが複数確認された。**

### <オミクロン株の感染状況について>

- オミクロン株陽性者のうち、**海外渡航歴等なしが約 9 割**。また、**ワクチン 2 回接種済の陽性者が半数以上を占めている**。
- 第六波は、第五波と比べ、**60代以上の陽性者の割合が増加**。また、**オミクロン株陽性者については10代以下の割合が高い**。
- 感染経路としては、第五波と比べ、**施設関連や学校関連、濃厚接触者（家庭内感染含む）の割合が増加**。  
**学校関連や施設関連での集団感染に注意が必要**。

(参考) オミクロン株に関する各国等の暫定的報告

- ・ 伝播性の高さや、デルタ株に比して倍加時間や潜伏期間の短縮化、二次感染リスクや再感染リスクの増大が指摘。
- ・ ワクチンについては重症化予防効果は一定程度保たれているが、発症予防効果は著しく低下していることが報告。
- ・ 試験管内での評価として、一部の抗体治療薬の効果が低下する可能性などが指摘。
- ・ デルタ株と比較して重症化しにくい可能性も示唆

### (2) 感染状況とワクチン接種状況

- **60代以上新規陽性者のうち、2回接種後14日以降に陽性となった者が50.0%**。40・50代で39.5%、20・30代で20%。  
12月～1月に判明した新規陽性者のうち、3回接種後に陽性となった者は2名。  
**ワクチン接種後も感染予防対策の継続が必要**。  
※ワクチン接種が進むことで、2回接種後14日以降の陽性者数が増加している可能性や、ワクチンによる感染・発症予防効果の低減の可能性。  
(各研究結果において重症化予防効果は比較的高く保たれていると報告されている)

### (3) 医療提供体制の状況

- 現在、令和3年11月に想定したシミュレーションを大きく上回る急拡大であり、今後、**医療資源を最適に配分しなければ医療療養体制がひっ迫する見通し**。「入院・療養の考え方」を見直すことで、**療養体制の最適化を図り、患者への治療機会を最大限確保**。

# 感染状況と医療提供体制の状況について

## 今後の対応方針について

- 現在、大阪府において**オミクロン株への置き換わり**が急速に進み、12月中旬以降、クリスマスや忘年会、帰省等の**感染機会の増加**、本格的な冬の到来（屋内活動の増加や換気の頻度の低下など）等を背景に、**過去最大の速度で感染が急拡大**。  
オミクロン株への置き換わりが進む各国や沖縄県の状況を踏まえると、**今後、大阪府でも、オミクロン株への置き換わりに伴って、急速な感染拡大が続く可能性が高い**。
  - 今後、**感染者数の急速な増加に伴い、入院による治療を必要とする人が急激に増え、軽症・中等症の医療提供体制が急速にひっ迫する可能性**がある。  
また、高齢者や基礎疾患を有する方など**重症化リスクの高い患者の増加により、重症者や死亡者が発生する恐れ**がある。  
（現在、府内では、**重篤度が高いとされるデルタ株患者も一定数存在することから、デルタ株患者の発生動向にも注視**）
- ⇒ これまで以上に基本的感染予防対策の継続や会食時の4ルールの徹底などによる**府民の行動変容を促すとともに、今後の医療ひっ迫の状況に留意し、現状より強い措置の検討により感染急拡大を最大限抑制することが求められる**。  
また、重症者や死亡者の発生を防ぐため、**高齢者施設等でのクラスター発生・拡大防止の徹底も必要**。
- また、今後、感染が更に急拡大した場合に備え、**療養体制の最適化を図り、患者への治療機会を最大限確保するとともに、今後、増加が見込まれる自宅療養者が確実に治療療養にアクセスできるよう体制確保など、医療療養体制の整備を図る**。  
併せて、感染規模の拡大に伴い、保健所業務のひっ迫も想定されることから、**保健所業務の重点化や体制整備を図っていく**。